

平成27年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年7月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,345億円余
2. 前年同月比	5.9% (3か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.7%(89.5%) : 非店頭7.7%(10.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,715㎡ (前年同月比:0.0%)
6. 総従業員数	19,560人 (前年同月比:1.6%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	11-1月 0.4%、12-2月 1.7%、1-3月 -5.1%、 2-4月 -0.8%、3-5月 1.1%、4-6月 11.5%

【参考】平成26年6月の売上高増減率は-4.1% (店舗数調整後)

【6月売上の特徴】

- (1) 6月の入店客数は、日曜日の1日減やクリアランスの月ずれなどマイナス影響もあったが、東京地区は前年比較で降水量が少なかったことや、各社の来店促進策などが奏功しほぼ前年実績を確保した。
- (2) 商品別では、主要5品目のうち、身のまわり品(+10.7%)、雑貨(+26.1%)が2桁増を記録。家庭用品(+8.2%)、食料品(+1.6%)もプラスとなった。主力の衣料品は、各社、プロパー商品の拡充や催事の充実を図ることで一定の成果を残したものの、セール期間のずれの影響をカバーするには至らなかった。
- (3) 細分類では、紳士服(+1.6%)、その他衣料品(+6.5%)が厳しい環境与件の中でプラスとなったことが特筆される。また、株高や賃上げ、賞与増などによる消費マインドの向上に加えインバウンド効果を背景に、化粧品(+37.4%)、美術・宝飾・貴金属(+32.2%)が好調を継続している。
- (4) 個別商材では、月を通し気温が低く推移したことで、スーツやジャケットに動きがあった半面、半袖シャツや日傘、帽子などUV対策商品が低調。また、最近の傾向としてクリアランス期間にセール品とプロパー品の価格価値を比較、プロパー品を購入する動きが見られる。なお、インバウンド関連は洋酒や漆器類、南部鉄器などに人気が集まった。
- (5) 7月の商況は、15日段階10%強で推移。セールの本格化と共に月後半の伸びが期待される。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
①増加した:8店、②変化なし:3店、③減少した:6店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した:3店、②変化なし:8店、③減少した:1店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年06月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	134,502,550	100.0	5.9
紳士服・洋品	10,227,623	7.6	1.6
婦人服・洋品	21,977,315	16.3	-5.1
子供服・洋品	1,735,256	1.3	-4.8
その他衣料品	2,610,314	1.9	6.5
衣 料 品	36,550,508	27.2	-2.5
身のまわり品	18,825,452	14.0	10.7
化粧品	9,393,855	7.0	37.4
美術・宝飾・貴金属	10,012,099	7.4	32.2
その他雑貨	5,761,388	4.3	3.7
雑 貨	25,167,342	18.7	26.1
家 具	1,549,837	1.2	-2.8
家 電	930,391	0.7	-18.8
その他家庭用品	5,150,575	3.8	19.4
家 庭 用 品	7,630,803	5.7	8.2
生 鮮 食 品	6,173,061	4.6	1.0
菓 子	9,486,270	7.1	1.4
惣 菜	7,064,497	5.3	1.4
その他食料品	14,639,918	10.9	2.1
食 料 品	37,363,746	27.8	1.6
食 堂 喫 茶	3,179,596	2.4	0.1
サ ー ビ ス	2,349,691	1.7	4.1
そ の 他	3,435,412	2.6	4.1

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	4,727,723 千円	-2.1
従 業 員 数	19,560 人	1.6
店 舗 面 積	856,715 m ²	0.0

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品が3か月連続のプラスとなった。また、衣料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、紳士服・洋品、その他衣料品、化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、その他家庭用品、生鮮食品、惣菜、その他食料品が3か月連続、菓子が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	5.9	—	3か月連続プラス
紳士服・洋品	1.6	0.1	3か月連続プラス
婦人服・洋品	-5.1	-0.9	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-4.8	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他衣料品	6.5	0.1	3か月連続プラス
衣料品	-2.5	-0.7	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	10.7	1.4	3か月連続プラス
化粧品	37.4	2.0	3か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	32.2	1.9	3か月連続プラス*
その他雑貨	3.7	0.2	3か月連続プラス*
雑貨	26.1	4.1	3か月連続プラス
家具	-2.8	0.0	2か月ぶりマイナス
家電	-18.8	-0.2	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	19.4	0.7	3か月連続プラス
家庭用品	8.2	0.5	3か月連続プラス
生鮮食品	1.0	0.0	3か月連続プラス*
菓子	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.4	0.1	3か月連続プラス*
その他食料品	2.1	0.2	3か月連続プラス*
食料品	1.6	0.5	3か月連続プラス
食堂喫茶	0.1	0.0	3か月連続プラス
サービス	4.1	0.1	3か月連続プラス
その他	4.1	0.1	2か月ぶりプラス
商品券	-2.1	-0.1	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>